中村俊定文庫
文庫 18
43

中村直勝文庫

加う醉の手をふる事
の方樣あしはすきはくを
奥をもしらしみこうを
家に又武臺(ぶだい)まいこと
杉はつすゝ初るなにみえ
さはやをさゝはへのまし
のゝ花を生ゝのうはへを
よゝよゝくすゝめやされば
きゝゝゆのくさゝのゝのん
やゝのゝ氏滝をすゝりき
かゝはをさゝのそゝかく
杉はいきゝ奥のゝすゝ杉(すぎ)
とゝゝゝゝるひゝをきゝまて
志づゝさあゝをゝ初ゝ角ゝ
八月(はちがつ)ゝ邦(くに)のゝすゝをるゝんと
杉ゝのはをくゝみゝ色とゝさ
はゝをゝ杉のゝうゝをゝへゝら
て滝を杉を海ゝるゝゝゝを
一切(いつさい)のゝハゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝせゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝて笑をゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝ天のゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりゝゝゝ上邦八月ゝ

四季ハ四つ〳〵とやはらぎと
き来るの移るを人し過
のたとへ〳〵ひろ〳〵ひろ〳〵
まはさきハせとしいきかの
ひるさき若木海ろく毛久那ま
ひ〳〵ひますと云るなり此云
そへ猶若草の毛萱梅白
梅はさ者もの〳〵さまりけ
いとれ〳〵〳〵そ、ひのあきやう
あ〳〵あ〳〵ろ所はすハ松業
まるのはし〳〵しあさ〳〵
きんのひ〳〵ろ海はのの様の様と
木瓜海棠辛夷の蕾ハを
てきき瓜柳さ〳〵ろ者とりわ
ゆき夏ハ海〳〵さ川道ハ
あ〳〵の人すそと
はく鞠をひろ石ハ
をもむ秋ハさやけさ月乃
あ海ろかあとあ〳〵
ろ者或ハひ〳〵ひ桜ひえ
るとのこまを打ち
ま〳〵ものるよ竹ハ文はく
柿枝桃の梢を思ひなるハ

霰もけさ花壇をみてハ椿
枝鶴及詩謄のとくさまされ
人皆もとうくはなハ称まき
野の文字種あく吟する年の
名跡をあへてゆるし尚すめ
世のさしひあらきなくころ
柳はなお集なるをまと後し
先ん白斧のうまく指合はつう
まし次ハ四季の詞無の詞
同連歌の詞も過かし名家を
今めかしきくの也極又世話の
詞の紀めの題撰集にも出とか
はげしくして後囲の名物
付合悪るなと狂皓の我多し
皆用捨有人へきらすなそ我句
付句ハ古今集の歌人の様き
うせる事多しこの句等を愚
なるとも一句すこ入申法みか
人間をとらへいよく嘲を
随すくは嫉りすしくもやを
より長の多るまハ人の詞乃也
筆にハ付き推て聞をさう
つきなうし寛やかにはあつる

へ子童をさつてるとこ云志うをこ
とゝへ寶永十六年戌寅九
月を限りく藏をもとめんす
うさうひるのすへて春の数へ
乃海る虎のあるゝにひとちく
付句とゝへて狐住へき酒五乃
乃のけりまは月ーまるて晴月
後の五日五ゝむの花をちる
しをもちるね

式用

一 紙類乃拵合者より和漢の法
ゟ用ゐる事代は安りても大ス
用し但ゑを虎へし
一 十匁代用 [illegible] 前ゟ和連歌ゟ用
一 休用ゑ手ゟ用ゐ
一 累物多本たゝり用ゐ
一 茅和矣名紙中所平宮其事之
一 きゝゟ面を煙地大方七匁ゟへ
一 月産ハ其ゟ代ゝ七匁ゟ以外
七匁ゟのハ五匁ゟ也
一 連歌のゟゝ為て陽物ゝ度
狩紙足義 述懐 旅 月ゟ
一 丁隅ゟ匁物ゝ

[illegible] 数 月 [illegible] 四ゟ [illegible]
風ゟ 雨 面ゟ [illegible] 多ゟ 問
一 ゟ面ゟ匁物ゝ幸 連 [illegible] ゟ匁
煙物ゝ 合也 [illegible] 風 煙
[illegible] 月ゟ [illegible] 和 [illegible] 月ゟ 桂和 [illegible]
ゟゟ [illegible] 物ゝ [illegible]
一 付匁ゟ ゟゟ [illegible] 人
九ゟ養面 井ゟ 親親
掃除ゟ 多帝 [illegible] 掃ゟ
隅
一 連歌ゟ不出和 [illegible] 陽ゟ 一 [illegible]
以一や但不 [illegible] 為て [illegible]
[illegible] 汗一馬刀市ゟ内
又一

踊一　胸頭生[?]ニ　茶一　[?]
云て又一
撫[?]て青[?]ハ徳一　[?]
蔵一　蔵年蔵[?]　術及揺[?]
貞之[?]留りこ一中ま[?]て又一年
へし
是等ミ[?]ま有[?]之抄跳[?]ヲ
て八二句まへし二句三句四句の
物氏かも連歌の定ま[?]法一まさ
ま[?]に用て道ろへきよし古
来ミ離[?]や徳[?]を内耳ま言す
用捨まへし

角犬追善　宣和
[?]野[?]ろとハかなしき秋の風
素江宣和
袖[?]露[?]もはこらぬ旅人の名残かな
素江宣和
か河[?]想[?]一睡や木の間の月の良
素江宣和
月ハ雲ろ郭公の声の名ある哉
素江宣和
我出[?]芋[?]ちらめや屋　月夜
秋田
山田守僧都の古寺まもやらく　[?]子
素江宣和

雲江定和
芳野かなよしや人にはなす榾

雲江定和
古葱も不乗乱てなら流めり
不気の外躍りやまえる峯下風

雲江定和
てふらきや秋ふ紀江の不乗舟

雲江定和
人古え時雨もかやまんまい哉

初鰹
雲江定和
世津紀江世へ毛見ありや初鰹

鶯
雲江定和
鶯八年ふ寄春から字えならん

雲江定和
雉子啼も氏の杖有きん老乃果

六十一歳 雲江定和
本卦ふへり俤見ゑちめてまろ給

梅
雲江定和
梅乃和我名那波の何出ん

雲江定和
梅のミク宗氏髪寄せふ十姫色

雲江定和
老法にし何もちもすし姥桜

雲江定和
余るこふハ忘れしかな流法系の

和歌　松江重頼

和田山に桜色なるみ雪かな

雪江重頼

毋祭りこゝろわたらん天満宮

非要毛毛跡尤ある迄毋祭

雪江重頼

猶別毛加毛毛山職毛郭云

蓮花　雪江重頼

散くのゝ世界地浮美毛花ん

雪江重頼

清光八秋やかつらくゝとゝろとん